

薬物乱用防止に向けた取り組みについて

佐久間 儀 郎



これまでどのようなことを行なってきたのか。また、今後の対策についてどのように考えているのか。

〔質問〕国立精神・神経医療研究センターが実施した薬物乱用などの意識・実態調査の結果、大麻や覚醒剤、危険ドラッグの使用を「少々なら構わない」「全く構わない」と考える中学生が増えていることがわかった。

センターの研究室長は、若者の間で違法薬物を容認する考え方が広がっている原因の一つが、インターネットであると述べている。これから社会を担う青少年に対する啓発強化と薬物に係る教育の一層の徹底が必要と考

〔答弁〕「教育部長」国が策定した第5次薬物乱用防止5カ年戦略で示されている薬物乱用防止教室について、平成30年度においては市内全ての小中学校で実施している。今年度においても市内全ての小中学校で実施する予定である。

でなく、薬物乱用の要因についても取り上げ、断り方など適切な対処を考えさせる授業を行なっている。

〔質問〕文部科学省では、学校薬剤師など薬物等に関する専門的な知識を有する者の協力や教員以外の指導者による効果的な指導を求めているが、このような体制づくりはなされているのか。

〔答弁〕「教育部長」平成30年度においては、市内全ての小中学校で専門知識を持った外部講師を活用している。今年度も同様に実施する予定である。

〔質問〕警察と学校関係者等の連携状況を伺う。

〔答弁〕「教育部長」市内各中学校において、学校警察連絡協議会との連携を図った取り組みを行なっている。

◎避難行動要支援者名簿の作成・活用について

第6次白石市総合計画の策定について

四 竈 英 夫



を評価するためのシートを作成し、検討を行なっている。

これらアンケートの結果と評価シートの集計・分析を行い、第6次総合計画の策定に生かしていきたい。

〔質問〕本市では、平成22年度に策定した第5次白石市総合計画が令和2年度で最終年度を迎えることから、第6次計画の策定に着手した。

この計画の基本理念と計画に対する期待などについて伺う。

〔答弁〕「企画情報課長」7月から8月にかけて無作為に抽出した市民3千人を対象にアンケートを実施し、第5次総合計画に対する満足度や今後の重要度について伺った。

さらに庁内においても21の施策についての取り組み状況、関連事業の今後の方向性などを評価するためのシートを作成し、検討を行なっている。

これらアンケートの結果と評価シートの集計・分析を行い、第6次総合計画の策定に生かしていきたい。

◎移動図書館「こまくさ号」の運用について

〔質問〕移動図書館「こまくさ号」は、図書館から遠い地区の方々に図書に触れ親しんでもらうため運行されているが、現在の利用状況と今後の運行計画について伺う。

〔答弁〕「教育部長」平成30年度は毎月16カ所のサービスポイントと2カ月ごとに20カ所の配本文庫を巡回し、合計2万4千683冊を貸し出ししており、多くの利用をいただいている。こまくさ号の運行計

画については、必要に応じて見直しを図っており、利用者の少ない所は廃止するとともに、利用者の多い所は新たに加えている。

今後ともさまざまなニーズを捉えて運行計画を検討していきたい。

◎かわまちづくり事業の今後について

〔質問〕小原材木岩公園一帯を整備し、観光のスポットにする「かわまちづくり事業」の進捗状況を伺う。

〔答弁〕「都市整備課長」平成28年度より一帯の整備について、関係機関と協議を進めるとともに基本構想の作成を行なった。しかし、認定の要件として一定規模の事業量と期間の設定や年間集客数の見込みなどを精査する必要があり、申請については見合わせている状況である。

◎図書館の整備計画について